

完全学校週五日制のアンケート結果を読んで

2001.8 波田町

注)・印：回答の説明 ●印：類似回答をまとめた説明 ：評語

保護者 小学校595 / 715名-83.2% 中学校475 / 539名-74%

1. 5日制、休みの過ごし方について話し合ったことがあるか。

- ・「ある」が、小中とも、約1/3

関心はまだそれ程高くないのか。

2. 休日の不安はあるか。

- ・「ある」、「なし」が小中ともほぼ半々。

約半数が不安を感じているようである。

3. どんな不安か。(2で「ある」と答えた人)

- ・「子どもだけで長時間過ごす」が、小中とも20%を超える。
- ・中学校「交友関係が心配」の32%が多い。
- ・「近くの遊ぶ場所や利用する施設がなく、道路状況や交通事情が心配」を合わせて、小29%、中17%と多い。

親の目の届きにくい状況下における子どもに対する不安である。

その他、「学習面の不安(学力低下、授業への無理)」、「地域社会での受け皿ができていない」、「親は仕事で家庭に不在」等の不安もある。

4. 土曜休日をどのように過ごさせたいか。(複数回答可)

- ・「家族と一緒に」が、小53%、中44%である。

放任でなく、親が関わりを持つ機会を多くするように考えている。

- ・「本人に任せる」が、小43%、中60%であり、また、
- ・「子どもだけで過ごす」が、小15%、中17%である。

患巣をどのよう'に心てノいくか。これが、

家庭の都合で、子どもに任せるしかないというのは心配だ…。子供の指導をどのようにしていくか。これが完全週五日制を生活の中に取り入れて生かしていく大きな鍵となるだろう。

- ・中学校「部活動」49%と多い。

土曜日の部活動の実施について、「従来通り継続か、指導者や所属団体等組織変えをして継続か、それとも中止か。」学校としての方向を出して、生徒や保護者に理解してもらう必要がある。

- ・「スポーツ少年団」が、小20%、中10%、
- ・「図書館に通わせる」が、小17%、中10%である。
- ・「子供とお年寄りのふるさと活動」が、小22%、中8%。

既存の施設、団体等を大いに活用するとともに、「ふるさと活動」を受け皿として、町民の理解と協力を頂いて、徐々に育てたいと願う。

5. 希望する施設、企画について(複数回答可)

・「児童館の新設と指導員の確保」が小52%、中34%。「既存施設の開放」が小38%、中46%。「学習広場の開設」が小26%、中24%。この3つが多い。

「既存施設の利用」が実現の可能佐に近い。管理面の問題や指導者の確保等を具体化する必要がある。

又、現在あるものを生かす点では「スポーツ少年団等スポーツクラブの拡充」の小18%、中19%、「ふるさと活動」の小10%、中7%と希望がある。

「児童館」：児童館の実現までに解決すべき事項が多々ある。場所はどこか、数は何箇所か、通うのには…。館の大きさ、指導者、管理、費用等。また、既存の分館を利用することは無理なのか。

「学習広場」：中央公民館を中心とした場所。自主学習か、補習か、学年別か。教室の会場数と管理指導者数は…。 “公営の学習塾か？”主催、性格は何か。学校や教育委員会としての関わり方は？

- ・「子供でできる休日行事の新設」は小24%、中17%ある。

・その他、「ボランティア活動の紹介、自然体験や文化に触れるクラブ、人として基本的なことが身につけられるような教育の場」が出ている。

実現に向けて検討する価値がある。

6. その他、自由に意見を。（小：48件、中：24件 出されている）

その内容によって、「ア：家庭 イ：地域や町 ウ：社会全体 エ：学校」として、それぞれに【肯定・積極】、【要望】、【批判・疑問】に分類して傾向を見た。

		小学校	中学校
家庭	肯定	12件	3件
	要望	なし	1件
	批判	3件	2件
地域・町	肯定	2件	なし
	要望	16件	4件
	批判	3件	4件
社会	肯定	なし	なし
	要望	1件	1件
	批判	なし	1件
学校	肯定	なし	なし
	要望	5件	3件
	批判	6件	5件

《家庭》（注）内容が似ているものはまとめて表記（ ____ 部分は原文のまま）

【肯定・積極】

- 親が、家庭のあり方を責任を持って考えることだ。子どもの要望をバックアップするとか、家族の触れ合いを大切にするとか、子どもが自分で生活パターンを築いて家庭の一員として手伝いをするとかしたり（その日を「家庭で働く日」としてもよい）、また奉仕活動、農家の手伝い、アウトドア研修等、活動の幅を広げることも意味がある。

休日は責任を持って子どもの受け皿となるのは家庭である。「生き抜く力をつける」という本来の主旨を生かし、家庭で取り組む必要がある。

- ・ 土、日曜日を自ら進んで学習に励む日としたい。

【要望】、【批判・疑問】

- ・ 子どもは休日でも、親は働くのに忙しく、面倒をみてやれないので心配である。
- ・ 子どもの自主性に任せればよい。なぜ「何か」をしてあげなければいけないのか。

家庭の事情もあるが、完全週五日制の主旨を家庭でよく理解して、子どものためにより良い家庭生活を築いていこうという考えが伺える。

《地域・町》

【肯定・積極】

- ・ 「子どもとお年寄りのふるさと活動」は良いことだ。役員の方の負担にならないように子どもに任せていく。分館の活動も様々に工夫をしていくことが大切だ。

【要望】

- ・ 既存の施設をフルに活用すること、区ごとに安全で楽しめる公園施設の整備拡充、分館の自由開放利用（保護者が交替で面倒をみる）を希望。
- ・ B&G等、遠方へのバス運行を町に要望する。
- ・ 月2回くらいの子どもの主体となる行事や、好きなものを選択できて余裕のある時に参加できる自由性のあるもの、又、運動以外にもボーイ（ガール）スカウトの活動、文化や自然やパソコンの講座の開設、学習などの苦手なことを補修する企画など、いろいろ考えて欲しい。
- ・ 子ども達の生活の乱れや荒れ防止の受け皿を真剣に考えて欲しい。
- ・ 各関係機関をまとめて、子どものための健全育成の方針を推進協議会で出して欲しい。
- ・ 駅周辺の治安から、夕方や夜間の警察などの巡視を希望する。
- ・ 児童館の新設を希望する。

【批判・疑問】

- 「子どもとお年寄りのふるさと活動」はアンケートの後、地域の考えや高齢者の声を聞くなどして設定すべきもので、生まれるまでのプロセスを大切にしたい。もっと家庭に任せるべきで、お年寄りに休日まで子どものお守りをしないといけないのかという声もある。

・ 大人の考えたものが果たして子どもの自主性を育てることにつながるか疑問である。小学生なら地域の集まりに参加するが、中学生が分館活動に行くことは、あまりない。

- ・ もっと家庭に返すことを前提にして、これ以上行事等を企画すべきではない。

多種の要望、意見が出されているが、これ等の要望、意見を検討し、急を要するもの、価値のあるものを見極

め、取捨選択し、実現の可能性、必要性の高いものから手をつけていくことがよい。

その実現の為に、教育委員会として関係機関に働きかけをしつつ、人的面（地域人材バンク）、予算面（有料制も加味）等の確保、町民の理解を得て盛り上げを図ること、タミイミング等を検討することが肝要であろう。

社会全体

【要望】

- ・子どもと共に大人も、時間的にゆとりのある生活（社会）になって欲しい。

【批判・疑問】

- ・週5日制と言っても、親が休みにならなくてはどうにもならない。

各種の職業の労働時間（労働契約）に関係することであるから、日本の社会の変わっていく移行期であり、定着するまでには時間がかかるであろう。

学校

【要望】

- ・学校のグラウンド、体育館、校舎の開放を進めると共に、テーマタイムのようなものを毎週又は月1回計画するなどして欲しい。

- ・子ども達にゆとりを持たせるためにもPTA行事の親の負担を減らして欲しい。また宿題も減らして欲しい。
- ・（土曜日の時間を使って）、学校で授業の補足をして、塾へ通わなくても安心できる学習体制を作って欲しい。
- ・休日は部活動をやらないでほしい。
- ・部活動に力を入れてほしい。
- ・子どもの行動のきまりも見直す必要がある。（ただ、子どもが楽しく、友達と過ごす時が多くなるから）

【批判・疑問】

●学校の授業の内容削減で学力は大丈夫か、時間が少なくなり急いで進む（わからなくなり塾通いの心配）とか、低学年も5～6時間授業になる（却ってゆとりがなくなる）とか、出来る子と出来ない子の差が大きくなるとか、授業面へしわ寄せ（負担）がいき、受験勉強も心配である。

- ・夏休み、冬休みの長期休業についても考えていく必要がある。
- ・部活動に参加していない子は時間を持て余して非行に走りやすくなる。
- ・そんなに休日ばかり増やさずに、もっとゆったりとした目の行き届いた学校生活が出来たらいいのにとと思うのは私だけでしょうか。

授業内容や授業時間の削減に伴う学力の定着は大丈夫かという不安は大きい。また、ゆとりある生活というイメージとは、ややずれた姿を感じるので、不安がある。補習を望む声もある。この不安への対応は慎重を要するが、不安解消への努力を、放任してはならない。

部活動、学校開放、生活面のきまりの見直しについても対応が急がれる。教育委員会も連携して、学校の判断の支えをする必要がある。

《児童：小学生961名の聞き取り調査、生徒：中学生539名に調査》

1. 現在の月2回の土曜休日はどのように過ごしているか。（複数回答可）

- ・「学習、読書」が小39%、中40%、
- ・「手伝い」が、小39%、中24%、
- ・「決まったことはなく、何となく過ごす」が、小21%、中35%。
- ・「部活動」が、小は8%と少ないが、中は46%と多い。
- ・「スポーツ少年団：小、中で37%」、「塾や習い事：小、中で31%」、「図書館：小、中で19%」

休日の開放感の中で、普通の過ごし方のように思われる。

2. 月2回の土曜休日を誰と過ごしているか。（複数回答可）

- ・「家族（大人）と」が、小66%、中58%と最も多い。
- ・「兄弟で」が、小34%、中38%、
- ・「友達」が、小20%、中37%
- ・「スポーツ少年団の友達」が10%、
- ・「運動関係の仲間」が35%、
- ・「一人で」が、小5%、中26%とある。

「家族や兄弟と過ごす」が多いのはよい。「一人とか友達と過ごす」の内容が気に掛かる。

3. 完全5日割の実施で因る（不安）ことは何か。（小中で異なる項目がある）

- ・施設や場所：小「近くで遊べる安全な場所があるか」が、18%。

中「施設・設備の内容、希望の活動が出来るか」が、8%

- ・「近所に友達がいない、仲間ができるか心配」が、小12%、中2%
- ・「家で一人になること」が小5%、中4%も
- ・「交通安全」が、小で9%、「槽談出来る指導者」が、中で2%ある。

子どもの立場からすると、「近所の安全な場所で、希望する活動の出来る施設があって、一緒にする友達が居て遊べる事」が不安解消の集件であろう。この条件が揃わないと、思うことができずに時間を持て余すという不安（困ること）のようである。しかし、この問いに対しては、全般に回答率が低く困るという意識をあまり持っていないように思われる。

4. 土曜日にどんなことをしたいか。

- ・「家で自由に過ごす」が、小59%、中70%と断然多い。
- ・「スポーツ少年団（活動）」が、小16%、中28%
- ・「ふるさと活動」が、小14%、中9%
- ・「図書館」、「お稽古ごとや塾」等がこれに続く。

家で自由に過ごすことは、当然の希望であろう。土曜休日が繰り返される中で、もっと充実した休日の過ごし方を求める気持ちが生まれてきて、継続的指導の中で、自発的にいろいろな計画等を考えてみたくなることが予想される。

5. 土曜休日を過ごすために、希望する施設等があるか。

スポーツ施設、アウトドア施設や公園、博物館系施設、ゲームやパソコンや料理教室等の集会所、温泉や健康施設等、種々の夢のある施設が上げられている。どれにも共通していることは「人が集まって利用しながら、互いに交流を深め合う健全な場」を希望していることである。いくつか実現されることを願う。

小学校：保護者と子どもの比較

心配ごととは何か。

子供の心配ごとは、近くの遊ぶ場所や近所の遊ぶ相手の無いことであり、保護者は、家で子供が一人で過ごすのが増えることを心配している。子供は自分本意で、保護者は親として子供を案じている様子がわかる。

どう過ごすか（過ごさせるか）。

子供は、「本人に任せる（自分で自由に過ごす）」が、59%と多い。

子供と保護者の双方にほぼ共通しているものは、「スポーツ少年団、図書館、ふるさと活動」で、いずれも10～20%台である。

一方、保護者は「（子供は）家族と一緒に過ごさせたい」（53%）と考えていることがわかる。逆に、「子供だけで過ごす」の保護者の15%は、小学生でも「止むを得ず過ごさせざるを得ない」厳しい現実なのか、気に掛かるところである。

付記

完全週5日割に対する理解が、各家庭でどの程度深められているのだろうか。今回の実施に伴う学校の学習指導、生活指導等の変容に対して、「趣旨はわかっているから、それに沿って家庭が責任を持つ。」か、「趣旨はわかるが、細部については疑問点や不安もあり、心配だ。」か、「趣旨等わからない部分もあるし、実施してみながら考える。」か。

子どもを取り巻く家庭生活のみならず、地域の社会生活にも変化が出てこよう。それぞれの家庭において、今後、関心をもって継続して努力し、保護者、学校、そして地域全体が、一体になって、安定した感じを持てるようによりよい姿を形成していくことを期待する。

アンケートによる完全週五日制への意識調査の結果について < 児童生徒 >

調査項目	波田小学校	波田中学校
1. 月二回の休業と曜日をどのように過ごしているか。	家で好きなことを 65% 家で勉強や読書を 39% 家で手伝いを 39% スポ少やクラブに 21% なんとなく過ごして 21% 塾やお稽古へ 15% 図書館などの公共施設へ 14%	家で趣味などを 62% 当校で部活動を 46% 家で学習を 40% なんとなくぼ - っと 35% 家事や手伝いなどを 35% スポ少やクラブに 16% 塾やお稽古へ 16%
	< 小・中ともに、ほぼ一般的な状況と思われる。 の小21、中35について、個々の実状に合った改善の助言が必要であろう。 >	
2. 月二回の休業土曜日を誰と過ごしているか。	家族 66% 兄弟 34% 友達 20% スポ少の友達 11% ほとんど一人で 5% 塾などの友達 1%	家族 58% 兄弟 38% 友達 37% 部活やクラブの友達 35% 一人で 26% 塾などの友達 7%
	< 5%の児童に、何らかの活動への参加を助言したい。 >	< 26%の生徒に、友達との交流の場を工夫させたい。 >
3. 完全学校週五日制になったとき、困ることは何か。	近くに遊べる公園がない 18% 近所に友達がいない 12% 公共施設までの交通安全 9% 家人が勤埠で一人になること 5%	希望する活動があるか 4% 希望する施設で何が出来るか 4% 家人が勤埠で一人になること 4% 仲間が出来るか 2%
	< 困ることのある児童はわずかであるが、 や の児童への支援が必要である。 >	< 困ることのある生徒はごくわずかで、大半は困るという意識が無い、と見てよい。 >
4. 休業土曜日が増えたら、何をして過ごしたいか。	家で自由に 59% スポ少で 16% 「ふるさと活動」14% 図書館へ 13% 稽古ごと 9%	家で自由に 70% スポーツ活動 28% 「ふるさと活動」9% 塾や稽古ごと 7% 図書館へ 6%
	< 最も多い「家で自由に過ごしたい」を大事にしながら、自由の中身について、一層有意義な過ごし方への指導が必要であろう。 >	< 「家で自由に70」には、多忙な中学生の本音が現れている。中学生については、基本的に、「本人の計画に任せる」方向向でよいと思われる。 >
5. 休業土曜日のために、どんな施設を希望するか。	・みんなで遊べる大きな施設 ・バレーボールの出来る施設 ・パソコンの使える施設 ・各区ごとの公園 ・キャンプ場 ・児童（科学）センター等	・スポーツ施設 ・雨天用グラウンド ・テーマパーク ・遊園地 ・公園 ・扇田公園の拡張 ・年寄りとそばを作れるところ ・釣り堀等

アンケートによる完全週五日制への意識調査の結果について < 保護者 >

調査項目	波田小学校	波田中学校
1 五日制について話し合ったことがあるか。	「ない」63% 話し合う必要を感じていないものと思われる。	「ない」62% 話し合う必要を感じていないものと思われる。
2 休日の増加に不安があるか。	「ある」49% ほぼ二人に一人が不安を感じている。	「ある」19%「多少ある」39%、合わせて58%、小学校より不安を感じている人が多い。
3 どんなことが不安になるか。	家人が仕事で子供だけになること 21% 公共施設までの交通事情 15% 近くに遊び場や公共施設がないこと 4% 五日制による、学校行事の削減、授業や触れ合いへのしわ寄せ、学力低下等への不安もある。	友達づきあいなどの交友関係 32% 家人が仕事で子供だけになること 26% 公共施設までの交通事情 12% 授業が忙しくなり、休日に反動が出ないか、テレビ・漫画本・ゲーム等での遊ぶ時間が増えないか等の心配も。
4 休業土曜日をどのように過ごさせたいか	家族と一緒に 53% 本人に任せる 43% 「ふるさと活動」に 22% スポ少に 20% 図書館 17% 塾やお稽古 6%	本人に任せる 60% 学校の部活動に 49% 家族と一緒に44% 子供だけで 17% 図書館 10% スポ少 10%
5 どんな施設や企画を希望するか	児童館等の新設と指導員の確保2% 既存施設の開放と指導員の確保 38% 中央公民館等での学習広場の開設 26% 子供だけで出来る休日行事の新設 24% スポ少等スポーツクラブの拡充と活動支援18% 「ふるさと活動」への支援10% (は要望していく。 は実施したい。 は塾的になりやすい。 は安全確保面で無理がある。)	既存施設の開放と指導員の確保 46% 児童館等の新設と指導員の確保 34% 中央公民館等での学習広場の開設 24% スポーツクラブの拡充と活動支援 19% 子供だけで出来る休日行事の新設 17% 「ふるさと活動」支援 7% (は実施したい。 は要望していく。 は塾的になりやすい。 は検討していきたい。)
6 その他の意見	・ 休日でなく家で働く日と考えたら。 ・ 子供を家庭に返し、自主性に任せる。 ・ スポーツだけでなく、自然や文化のクラブも。 ・ 公共施設へのバスの運行を。	・ 休日の過ごし方で学力差が出るのでは。 ・ 部活をやらないで。(強化して。) ・ 休日の責任は家庭が持つべき。時間を持て余して非行に・走らないか。